

□木津川上流部会における次期委員会へ引き継ぐ課題(案)

分野	項目	課題に関する委員からの意見
計 画	河川レンジャー	木津川上流域の河川レンジャー（制度）を早期に実現すること。
環 境 ・水質 ・土砂 ・生物等	総負荷量管理	早期に住民・住民組織・自治体との協働による流入河川の総負荷量管理を実施し、木津川、名張川の水質改善に寄与させること。（琵琶湖・淀川流域水質管理協議会関連）
	既設ダム水質	既設ダムの水質の監視と改善のための取り組み（曝気設備など）を継続し、その効果を検証すること。
	土砂管理	堰、ダム等の改修により土砂の流下を回復し、下流河川の河床低下の防止や生物の生息生育環境の改善が必要。
	縦断方向の河川形状の修復（生物）	魚類・甲殻類などが遡上・降下できるよう堰、ダム等の魚道整備・改修を行う。住民・漁協などの理解と協力を得るための取り組みの継続。
	ダム（群）・堰の適正な運用検討	木津川上流ダム群の弾力的運用の試行によるダム下流河川の攪乱の試行を継続すること。
	魚類等の斃死	青蓮寺ダムの事前放流により名張川で大量の魚類等の斃死が発生した。（本年8月9日）今後はダム操作規則による運用であっても下流河川に生息する生物への十分な配慮を検討する必要がある。
治 水	上野遊水地	洪水のピークを効率よくカットするため、木津川本川堤越流部の最適な構造を見出すための、実験を含む検討。
		遊水地の周囲堤を早期に完成すること。
	土地利用	かつて水害常襲地だった場所に新たな市街地を造成しないよう伊賀市と十分協議することが必要。
	水害に強い地域づくり	施設による治水対策の充実を図るとともに、住民の防災意識啓発、緊急時の避難体制の整備、災害弱者対策など住民参加による「水害に強い地域づくり」に一層力を注ぐこと。
	河道掘削	岩倉峡上流河川の河道掘削（堆積土砂の除去）による洪水疎通能力の向上（河積の増大）の検討。
	岩倉峡狭窄部	流下能力の検証。それに基く、岩倉峡流入部の部分開削により洪水時に上流河川の水位を低下させる効果の検討。

分野	項目	課題に関する委員からの意見
利水	渇水対策会議の改正	琵琶湖・淀川水需要管理協議会の設置の検討。
	水利権の見直しと用途間転用（農業用水の合理化）	木津川上流部の農業用水の慣行水利権の統廃合などの合理化とそれによって生み出された水量の用途転用を含む活用（川上ダム利水の必要性関連、現状では水利権水量を超える取水が日常的に行われている可能性がある）
	水利権の見直しと用途間転用（青蓮寺用水）	青蓮寺ダムに青蓮寺用土地改良区が確保している青蓮寺用水（名張地区特定かんがい用水・1.72m ³ /s）は、開設後20年余を経て畑地の営農形態の変化、耕作放棄地の増加、農地以外の利用などにより水需要が低下していると考えられ、これまで精査確認が行われていない。
		<p>利水分野においては、川上ダムに計画されている新規利水が懸案事項である。委員会提言「水需要管理に向けて」（平成19年1月発表予定）第3章およびダムワーキングの報告書において記載されているので、それらを参考にされて引き続き検討されたい。特に、次の諸点について重要と思われるので指摘しておく。</p> <p>①伊賀水道用水供給事業に予定されている、新規利水（水需要予測の精査確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 将来人口予測および水道使用における計画原単位 ii. 工業用水事業における需要予測および工場等の誘致の見通し iii. 将来の水道事業経営状況および水道料金見積もり <p>②木津川上流域の水利権の実態（利水者の水需要の精査確認および水利権の転用）</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 川上ダムの予定されている基準点における流況把握 ii. 農業用水等の水利権の実態把握および水利権の転用 <p>③木津川上流域のダム総合管理</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 比奈知ダムおよび青蓮寺ダムにおける水利権の転用 ii. 異常渇水時の水融通の促進
利用		
維持管理	河川内堆積土砂の管理	
	河道内樹木の管理	

分野	項目	課題に関する委員からの意見
ダム	生物の生育生息環境の保全	川上ダムの建設により、生息生育の持続性が阻害されることが明らかなオオタカ、オオサンショウウオなど頂端生物種とその生存を支える多様な生物の生息生育環境の保全についての調査・検討とダム建設の中止を含む対策の全面的見直し。
	川上ダム建設による自然環境への影響	ダム建設予定地とその周辺についての自然環境の調査検討は、ダム事業者により川上ダム建設を前提として行われてきた。従って、オオタカや極めて多数のオオサンショウウオなど貴重種や天然記念物が生息生育している、その保全のためにダム建設計画・事業を中止するという判断にはつながりにくいため、「河川環境の整備と保全」の主旨とは本来的に矛盾したものになっている。
	川上ダム治水	<p>川上ダム治水の有効性のさらなる検証（現状では有効性は低い）。</p> <p>川上ダムに代わる方策のさらなる検討（数種の複合的対策も検討）。</p> <p>川上ダム建設と代替案との費用対効果のさらなる検討。</p> <p>河川管理者は「川上ダムを縮小して建設する」と方針を発表したが、奈良県、西宮市の利水撤退による規模縮小の具体的仕様が未だ委員会に示されていない。</p>
	川上ダム利水	<p>取水ベースで 0.385m³/s という僅少の伊賀水道用水供給事業のために、川上ダム利水が必要か？さらなる代替水源の精査確認が必要。また、ダム利水費用負担による水道料金改訂の正確な情報提供による市民の納得（合意）は得られているのかが明らかでない。</p> <p>伊賀市水道用水供給事業について水需要のさらなる精査確認が必要。自己水源の持続的確保と活用に向けた調査・検討。今後の人口減少、経済規模予測（域内総生産の変動）を考慮した水需要予測見直しが必要。</p>